

# グループの重要課題(マテリアリティ)

日清食品グループは、社会情勢や経営環境の変化を踏まえ、事業に直結し、中長期的な企業価値向上に影響を及ぼす重要課題(マテリアリティ)を特定しています。当社グループが持続的に成長していくためには、自社事業を通じた経済的・社会的価値の創出を積み重ねていくことが重要と考えています。その実現に向け、マテリアリティを単なるリスク対応だけでなく、既存事業の基盤強化と収益(経済価値)拡大および社会価値の創出につながる機会と捉え、取り組みを進めています。また継続的にマテリアリティに取り組むことで、創業者精神を体現しつつ、当社グループが向き合うべき社会課題テーマ「Planetary Health」と「Human Well-being」に取り組んでいきます。



外部環境	主なリスク	主な機会	重要課題 (マテリアリティ)	中長期成長戦略との関連 (主たるもの)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康寿命延伸へのニーズの高まり</li> <li>●オーバーカロリーによる肥満や間違ったダイエット方法による隠れ栄養失調</li> <li>●飢餓や慢性的な食糧不足</li> <li>●フードロス削減に対する社会的要請の拡大</li> <li>●食品表示、トレーサビリティに関する規制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●栄養不良の二重負荷をはじめとした健康・栄養課題がもたらす市場購買力の低下リスク</li> <li>●栄養課題の改善に向けた規制強化への対応に必要なコスト増加リスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消費者の健康志向に応えるより栄養価の高い製品の開発や販売による売上増加</li> <li>●消費者のさまざまなニーズや志向に合わせた多様な製品提供による市場拡大</li> <li>●安定した品質の製品提供によるブランドへのロイヤリティ向上</li> </ul>	<b>健康と栄養</b>  <b>製品の安全・安心</b>	<b>Human Well-being</b>  <b>Planetary Health</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●労働力不足と人材確保の困難</li> <li>●ダイバーシティ&amp;インクルージョン推進への期待</li> <li>●労働環境改善と働き方改革への対応要請</li> <li>●リスクリングや人材育成の重要性の高まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●労働市場における人材不足により、自社工場などで人材の採用や確保ができず、事業活動に支障をきたすリスク</li> <li>●労働市場における人材不足により、優秀な人材の採用や確保ができず、幹部候補生の育成に支障をきたすリスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様な人材獲得によるイノベーションの創出と競争力向上</li> </ul>	<b>人材開発</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●気温上昇、異常気象の頻発</li> <li>●自然災害の激甚化による生産・物流リスクの増加</li> <li>●原材料、エネルギー価格の変動性拡大</li> <li>●カーボンニュートラル実現に向けた規制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境法規制違反による罰則・罰金リスク</li> <li>●環境法規制強化による対応コスト増加リスク</li> <li>●サプライチェーンにおける環境問題に関する訴訟リスク</li> <li>●気候変動の影響により原材料調達および商品提供が困難となるリスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フードテックを活かした植物性代替食の開発・使用</li> <li>●サプライヤーマネジメント強化による原材料調達の安定化</li> <li>●大規模自然災害の頻発による、防災備蓄製品としての需要増</li> </ul>	<b>気候変動</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●資源の過剰利用による生態系の破壊</li> <li>●土壌劣化や水資源枯渇など生産基盤の脆弱化</li> <li>●サプライチェーン上のステークホルダーに対する人権デューデリジェンス要請</li> <li>●環境に関する法規制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境法規制違反による訴訟リスク</li> <li>●環境法規制強化による対応コスト増加</li> <li>●サプライチェーンにおける環境問題に関する訴訟リスク</li> <li>●生物多様性の損失等の影響により原材料調達に支障をきたすリスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フードテックを活かした植物性代替食の開発・使用</li> <li>●サプライヤーマネジメント強化による原材料調達の安定化</li> </ul>	<b>生物多様性</b> <b>森林破壊</b> <b>持続可能なバリューチェーンマネジメント</b>	

既存事業のキャッシュ創出力強化

新規事業の推進

EFCD2030

# グループの重要課題(マテリアリティ)

## マテリアリティの見直し・特定

2024年度に、CSRD/ESRS<sup>※1</sup>が公表しているダブルマテリアリティ評価に関するガイドダンスを参照し、マテリアリティの見直し・分析を行いました。CSRD/ESRSで定められたESGに関する各トピックスをもとに、企業が環境・社会の変化に与える影響（インパクト・マテリアリティ）と、環境・社会の変化が企業に与える影響（ファイナシャル・マテリアリティ）を特定しました。

また、2025年度からは、取締役を含む役員報酬の業績評価に、気候変動や持続可能な調達などマテリアリティに関連する目標の達成度合いを反映しています<sup>※2</sup>。

※1 Corporate Sustainability Reporting Directive / European Sustainability Reporting Standards  
 ※2 取締役の役員報酬における基本報酬の業績連動幅は0～50%、執行役員については-20～+20%、最大40%の範囲です。ESGに関する目標の評価の比重は役員ごとに異なります。

## 特定プロセス

### Step1 影響を受けるステークホルダーの抽出

バリューチェーン全体で、当社グループの事業の影響を受ける可能性のあるステークホルダーを抽出

- 社外の有識者が参加するサステナビリティ・アドバイザリーボードでの議論
- 従業員へのアンケート調査

### Step2 課題の抽出および課題の影響、リスク・機会の分析

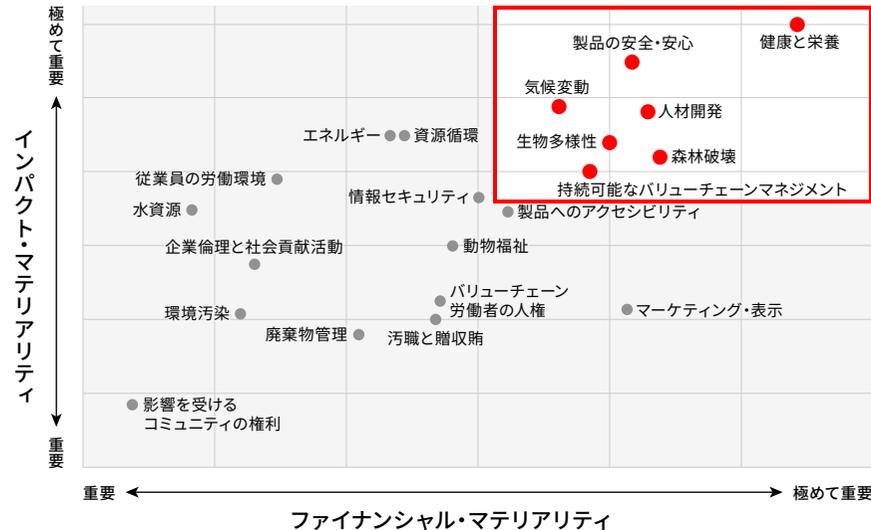
各ESG課題に対して当社グループの事業が与える影響、リスク・機会を分析

- ESRsで定められるトピックスやESG評価機関などの要求項目から自社に関連する項目を参照

### Step3 重要性の評価・特定

ダブルマテリアリティの観点から「影響度」と「発生可能性」を定量化し、評価マップを策定。その後、当社グループのMission・Vision・Valueやグループ全体の事業構造、戦略との整合性を踏まえて妥当性を確認し、経営会議および取締役会での決議を経て重要課題(マテリアリティ)を決定

## マテリアリティ・マップ



### 日清食品グループのマテリアリティ

- 健康と栄養
- 製品の安全・安心
- 人材開発
- 気候変動
- 生物多様性
- 森林破壊
- 持続可能なバリューチェーンマネジメント

## 主な目標と取り組み

詳細は各WEBサイトをご覧ください

- 健康と栄養
- 製品の安全・安心

- 2030年までに、「NISSIN-NPS」(NISSIN Nutrient Profiling System<sup>※3</sup>) で栄養価が改善した製品の割合を50%に増やす(2020年比) など
- >>健康と栄養 | 日清食品グループ

- 人材開発

- 2025年度末までに、女性管理職比率10%以上の達成
- 2030年度の男性の育児休業取得率85%の達成
- >>Human Capital Report

- 気候変動

- 2030年度までに、Scope 1+Scope 2 42%削減(2020年比)、Scope 3 25%削減(2020年比) など
- >>日清食品グループ環境戦略 EARTH FOOD CHALLENGE 2030

- 生物多様性
- 森林破壊
- 持続可能なバリューチェーンマネジメント

- 2030年度までに、グループ全体の持続可能なパーム油調達比率100%の達成 など
- >>持続可能な調達

※3 製品の栄養価をスコア化する当社独自の栄養プロファイリングシステム